

平成26年度 釧路市体育協会表彰

功労賞に川端紀一氏 (釧路バレーボール協会)



功 勞 賞 : ^{かわばたとしかず}川端紀一氏 (73歳) 釧路バレーボール協会副会長

川端氏は、40年間にわたり釧路バレーボール協会に所属。協会理事を15年間務められました。その間、審判部に所属され、協会の審判技能の向上にご尽力されました。

その後、現在までの11年間、副会長として多数の全国・全道大会の開催及び運営に才腕を発揮され、バレーボール競技の普及振興に大きな功績を残されました。



優秀選手賞 : ^{うえはらゆうま}上原悠馬くん (18歳) 釧路スケート連盟

上原くんは、2014年2月、北海道帯広市の明治北海道十勝オーバルで開催された第4回全国高等学校選抜スピードスケート競技会に出場。

500mで優勝。1,000mでは第3位の成績を取めました。

現在、北海道釧路明輝高等学校3年生に在籍。今後の活躍が期待されております。



優秀選手賞 : ^{さとうまゆ}佐藤真由さん (18歳) 釧路スケート連盟

佐藤さんは、2014年2月、北海道帯広市の明治北海道十勝オーバルで開催された第4回全国高等学校選抜スピードスケート競技会に出場。

500mで第2位。1,000mでは第4位の成績を取めました。

現在、北海道釧路江南高等学校3年生に在籍。今後の活躍が期待されております。

8月22日(金)に開催された釧路市体育協会表彰式で、張江会長は、「釧路市がバレーボール王国になることができたのは川端さんのおかげ。そして、氷都：釧路の名に恥じない活躍をして素晴らしい成績を取ってくれた上原君、佐藤さん」と3人の功績を高く評価しました。

受賞者を代表して川端氏は、「受賞にあずかることができたのも釧路市体育協会はじめ関係皆様方の深いご理解とご支援によるもの。今後はスポーツに対する自覚をいっそう深め、今までの経験を活かして恩返ししていきたい」と謝辞を述べました。

空手道バーナビー市国際交流記念

第30回カナダ杯争奪大会 盛大に開催される

本大会は、釧路地区空手道連盟：鳴海英忠会長が約40年前にカナダ・バーナビー市で空手道の普及活動を行ったことにさかのぼり、帰釧後に「カナダ杯」と名付けて創設され、現在まで継続開催されています。

6月8日、湿原の風アリーナ釧路を会場に、釧路・根室管内の23団484人が出場し、熱戦を繰り広げました。

今年は第30回を記念して釧路市の姉妹都市であるバーナビー市から空手道指導員のフランク・マスタード氏がデレック・コリガン市長のメッセージなどを携えて来釧しました。マスタード氏は鳴海会長の孫弟子にあたり、

来賓として出席するとともに、自ら古武術の棒術を披露して参加選手たちを激励しました。

競技では白熱した展開が随所に見られ、5選手が形と組手で2冠を達成するとともに、特別表彰として、ワールドボーイカップ、ワールドガールカップ、カナダカップが3選手に贈られました。



釧路市秋季体育祭総合開会式

30の競技に6,000人出場

第69回釧路市秋季体育祭の総合開会式が8月22日（金）夜、「湿原の風アリーナ釧路」のサブアリーナで行われました。

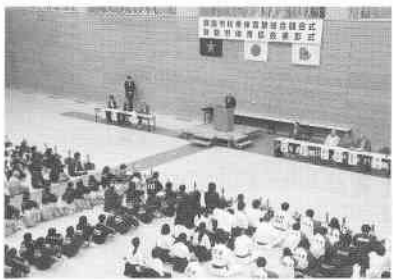
この体育祭は、釧路市体育協会が釧路市や釧路市教育委員会とともに主催し、種目ごとに各競技団体が主管します。

各競技の昨年度優勝チームの選手ら約350名が駆け付けた中、大会長の林義則教育長が「それぞれの技量や体力に応じてスポーツに親しみ、友情の輪も広げてほしい」と挨拶しました。続いて大会委員長の張江悌治会長が「この大会参加者の中から将来のオリンピック選手が誕生す

ることを願っている」と激励しました。

最後に代表として、尾田和一選手（釧路市ゲートボール協会、新学園台チーム）が「釧路市のスポーツ発展に努力し、友情の輪をモットーに正々堂々と戦うことを誓う」と力強く選手宣誓を行いました。見事な宣誓ぶりに、会場から割れんばかりの拍手が湧き起りました。

体育祭は、軟式野球、バウンドテニス、ゲートボール、卓球、バドミントンなど既に開幕した種目もありますが、多くの大会は9～10月に集中しており、市内各地で熱戦が繰り広げられます。



開会式会場



優勝杯返還



大会長挨拶



選手宣誓

第87回氷上インカレ 来年1月開催 釧路市実行委員会設立

釧路市や釧路地域の競技団体などは7月22日、来年1月に釧路市内で「第87回日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）」を開催するため、釧路市実行委員会を設立し、会長に蝦名大也市長を選出し、大会の準備日程などを決めました。

釧路での開催は2011年以来4年ぶり5回目となり、開催期間は平成27年1月5日～9日の5日間。釧路アイスアリーナなど4会場でスピードスケート、フィギュア、アイスホッケーの3競技が行われます。

選手、監督合わせて約1,100人、競技役員約300人、総計約1,400人の大規模な大会となります。

総会では、市や釧路スケート連盟などの競技団体幹部

ら計60人が委員を委嘱されました。

実行委員会事務局の市教委は「参加選手が十分に力を発揮できる環境を整えていきたい」と準備に意気込みを示しました。



ボウリングで健康増進

北海道ボウリング連盟鉦路支部 副支部長 佐藤茂樹



北海道ボウリング連盟の傘下支部として札幌支部の4クラブを含む16支部が道内に設立されています。そのうちのひとつが鉦路支部であり、昭和50年度に鉦

路市体育協会に加盟し、平成26年度の支部会員数は47名となっています。

年間事業としては、毎月第一火曜日に月例会、10月に鉦路市秋季体育祭競技大会、11月に鉦路市長杯争奪大会、さらに全国大会の予選を兼ねた各競技大会が札幌市を始め、函館、滝川、紋別、北見、帯広などで逐次開催され、当支部から多数の選手が参加し、ボウリングの技術力向上と会員相互の親睦を深めています。

そのうち、当支部主管で10月に開催する「北海道クラブ対抗選手権大会」は、それぞれ支部・クラブ単位で5人チームを編制し、支部・クラブの名誉とチームの栄光のため競技を行う権威ある大会であり、これまで何度となく鉦路支部からも全国大会に出場しています。

ボウリングは誰しものが生涯を通して楽しむことのできるスポーツでありますので、健康の維持増進のためにもぜひお勧めしたいと思います。

猟友会と連携して

鉦路ライフル射撃協会

事務局長 石井利男



協会が設立されて早45年、当時ライフル銃所持のための法律(銃刀法)も厳しくなり、会員は減少の一途をたどっています。

ライフル射撃は古くからオリンピックの競技に採用されておりますが、一般市民の認知度は低く、ライフル銃と言えば「鹿や熊を撃つもの」というイメージが北海道では強いのではないのでしょうか。

ライフル銃による射撃競技は世界的に普及しておりますが、射撃場の建設・維持等に莫大な資金がかかるとともに、使用する銃器・弾薬類は危険物でもあり、普及への大きな妨げとなっているのが現状です。

当協会も存続を図るため、地元の猟友会と連携して、鉦路市秋季体育祭への参加を要請するとともに、銃刀法改正に伴うライフル銃所持者対象の「技能講習」の場を通じて、ライフル銃の安全教育・射撃技能向上を図る指導等を行っています。

当協会は今後もライフル射撃の普及・発展のため新入会員の募集あるいは選手の育成発掘に力を入れていく所存です。

あらゆる世代へ向けて

鉦路テニス協会

会長 平 正幸



昭和53年4月に設立された当協会は、今年で36年が経過しました。その間には、幾度かのテニスブームなどがあって、協会の会員数も一時期は相

当な数の加入がみられたものの、現在は半数以下というのが現状です。

全国的に見てもコート数はピーク時の4分の3以下となり、プレーヤーは30代が減少した一方、40代以上が増え、とりわけ60代の増加が顕著であり、中高年プレーヤーが目立つ状況です。

一方、錦織圭選手の活躍によってテニススクールに通う10代未満の子どもの割合が増えているという事実もあります。

そもそもテニスというスポーツはプレースタイルによっては長く続けることが可能なため、その点を踏まえ今年度当協会は、60代以上の会費額の見直し、ジュニアの一般大会へのエントリー、初心者向けのイベントの実施、さらにホームページの刷新など、あらゆる世代に当協会の活動をアピールすることを重点にしており、今後の競技人口の拡大と競技レベルの向上に寄与すべく努めて参ります。

鉦路地区空手道の近況

鉦路地区空手道連盟

会長 鳴海英忠



古い伝統のある空手道が、鉦路市に普及の兆しが見え始めたのは、昭和29年頃であり、北海道においては道都札幌市より一足早く組織

活動を始め、現在も常に先達の気概で努力し発展しております。

昭和40年代前半までの空手道愛好者はほとんど成人男子でしたが、昭和40年代後半になって青少年、特に小学生に広く普及されてきました。

その大きな理由は、空手道が他の武道・スポーツに比べてケガの少ない武道・スポーツとして見直されたからです。

あわせて、空手道の持つ独特な身体動作と健全な心身の基礎づくりが、人格完成に素晴らしい効果をもたらしているからであります。

当鉦路地区空手道連盟は現在30団体、400名を超えるメンバーを擁しています。

また、鉦路市と姉妹都市の間柄であるカナダ：バーナビ市とは、節目ごとに人的交流をはじめ、優勝カップ、優勝旗の相互寄贈など、空手道を通じた文武交流を実践しており、世界平和と親善に寄与し前進しております。

旭日雙光章受章

張江 悌治 氏 (釧路市体育協会会長)



平成26年春の叙勲で、釧路市体育協会張江悌治会長は、地方自治をはじめとする幅広い分野での多大な功績が高く評価され、旭日雙光章を受章されました。

旭日雙光章は、国家または社会に対して顕著な功績を挙げた者を対象に、国が授与する勲章の一つです。

釧路市体育協会では、副会長を中心とするメンバーで発起人会を結成。7月1日、張江会長ご夫妻を囲む受章祝賀会を、ANAクラウンプラザホテルで開催しました。

会場には叙勲の栄誉を祝って友人、知人はじめ当体協の役員並びに加盟団体長など関係者ら150名が一堂に集い、笑顔の中で美酒を交わしました。

発起人を代表して栗林市体育協会副会長の挨拶。続いて横地副会長が張江会長について、「31歳の若さで初当選以来、釧路市議会議員を5期務め、総務委員長はじめ

要職を歴任するなどの市政発展。また、釧路地方陸上競技協会会長、釧路管内ソフトボール協会会長、釧路市体育協会会長、北海道体育協会評議員を歴任するなどのスポーツの普及振興。さらには更生保護活動はじめ児童福祉の組織的推進。さらには、釧路市功労者表彰、法務大臣表彰、日本陸上競技連盟秩父宮章、釧路市民貢献賞の受賞など、これまでの功績を紹介しました。

祝辞では、岩隈副市長が「釧路市の成長を率先して支えてこられた、熱意ある活動に敬意を表したい」と蝦名大也市長からのメッセージを代読。黒木満市議会議長は「卓越した指導者として今後ますますのご活躍を願いたい」と述べました。

張江会長は「多くの先輩から引き上げられ、大切な仲間たちが尻を押してくれた。本当にありがたかった。これからも頑張っていきたい」と力強く謝辞を述べました。

この後、村井釧路商工会議所副会頭の音頭で祝杯がなされ、祝いの席が進行。ご夫妻への祝福が最高潮に達した頃、清水市体育協会名誉会長がユーモアを交えた挨拶で締めくくりました。

好評：湿原の風アリーナ釧路 =利用者20万人超え！=

平成20年の秋、釧路地域待望のオープンを果たした総合体育館：「湿原の風アリーナ釧路」。以来、安定した利用者数で推移し、平成25年度は約22万人を数えました。東北海道最大のメインアリーナ（2800㎡）はじめ最新の各種設備は、競技選手や大会運営者からも極めて好評です。

本年度に釧路市内で開催される全国・全道規模大会のうち、半数は「湿原の風アリーナ釧路」が会場です。とりわけ「第22回全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル釧路大会（10/10～12）」、「第11回全日本女子フッ

トサル選手権大会（11/7～9）」の全国大会が楽しみなところ。わが街に居ながらにして、全国・全道大会のハイレベルな競技を間近に観ることができるのは、実にありがたいことです。

これは、湿原の風アリーナ釧路が有する高機能な施設機能と合わせて、各競技団体が精力的に大会誘致に取り組んだ成果によるものです。

今後は、大会の観戦のみならず、時にはプレーヤーとして一般開放時の利用もお勧めします。

編集後記



「立つ鳥、後を濁さず」との言葉がある。立ち去る者は自分のいた場所を汚れたままにせず、きれいにしてから行くもの。といういましめである▼ブラジルで開催のサッカーワールドカップ（W杯）で日本はコートジボワールとの初戦に敗れましたが、試合後に日本サポーターが観客席のゴミを拾う行為に称賛の声が相次いだ。リオ州政府は「言葉が通じなくても動作だけで素晴らしさが伝わってきた。日本人の行動は文化的な遺産だ」と讚え、「リオ五輪ではブラジル人にも見習ってもらいたい」とも訴えた▼スポーツとの関りとは、「プレー！・行うこと」のみならず、「ウォッチ：観ること」をも含む。高度な技や戦術の展開を目の当たりにして心躍らせ、臨場での一体感や非日常性に酔いしれる快感は他に代えがたい▼直接的な体験の機会となるスポーツの意義は大きく、スポーツを楽しむことができる力はもはや現代人が身に付けるべき「教養」の一つとなりつつある▼私たちはスポーツから多くのことを学び、スポーツに育てられてきた。スポーツの素晴らしさを経験してきたからこそ、スポーツに感謝することとなる▼日々流した汗がもたらす上達。チームメイトと築いたゆるぎない信頼。支えてくれる方々への感謝。熟知し守るべきルール。最高の勝者の証しであるフェアプレイ▼これからは私たちがスポーツの素晴らしさを子供たちに伝えていく責務を果たすと同時に、スポーツをさらに育てていかなければならない。